

## (6) 北 陸



北陸地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方に変更、    は下方に変更)

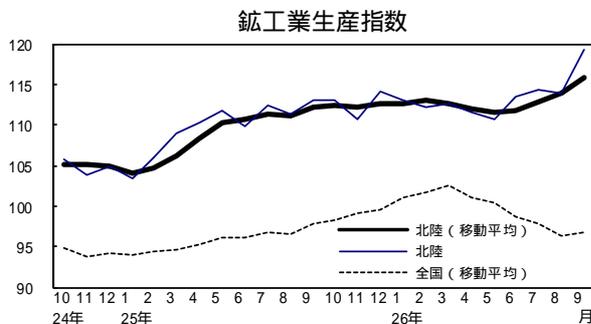
### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 26 年 8 月)	今回 (平成 26 年 11 月)
鉱工業生産	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるが、おおむね横ばいとなっている	持ち直し
個人消費	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるものの、持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる
雇用	着実に改善	改善

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直している。

7～9月期には、電子部品・デバイスは、スマートフォン向け電子部品が好調なこと等から増加した。化学は、後発医薬品や新薬が好調なこと等から増加した。はん用・生産用・業務用機械は、自動車向けの金属工作機械が好調なこと等から増加した。繊維は、定番衣料品が低調なこと等から減少した。金属製品は、住宅向けアルミニウムサッシ等の建築用金属製品が低調なこと等から減少した。



(備考) 1. 22年=100、季節調整値、最新月は速報値。  
2. 全国及び北陸の大線は後方3か月移動平均。

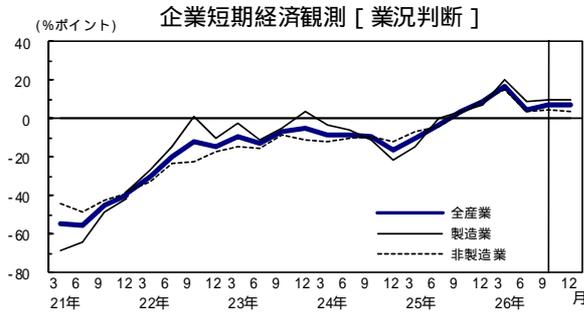
域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4～6 月期	7～9 月期	7月	8月	9月
電子部品・デバイス	20.8	8.5	13.9	1.4	2.7	15.6
化学	13.5	1.9	6.1	3.4	2.7	5.2
はん用・生産用・業務用機械	12.7	13.8	3.5	4.4	4.0	17.1
繊維	8.4	1.4	2.3	0.8	6.5	4.5
金属製品	6.0	6.5	3.5	1.4	5.1	3.0
鉱工業	100.0	0.6	3.6	0.9	0.3	4.6

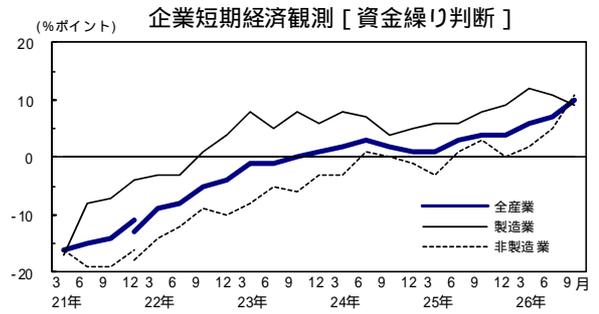
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。  
2. 7～9月期、9月は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ拡大している。

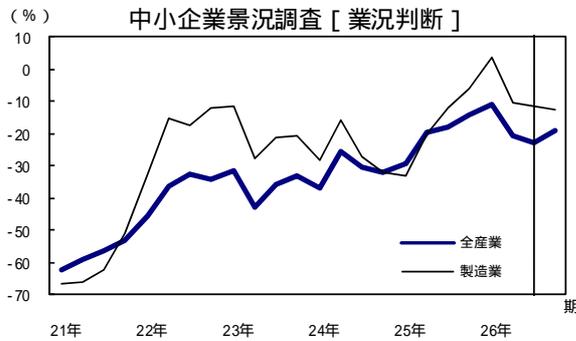
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。26年12月は予測。  
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
21年12月は新・旧基準を併記。

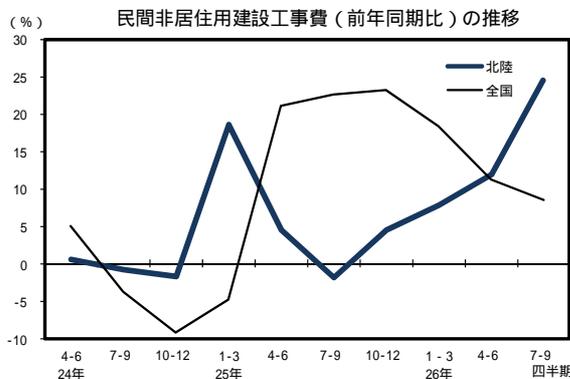


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。26年 期は見通し。  
中部地区。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「輸送量が増えてきていて軽油価格も以前に比べると下がっている(輸送業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	25年度実績	26年度計画
全産業	2.3	24.8(7.3)
製造業	5.1	46.3(8.2)
非製造業	0.7	3.0(6.0)

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。

(6) 北陸

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7月は前月比0.3%減、8月は同0.3%減、9月は同0.4%増となった。

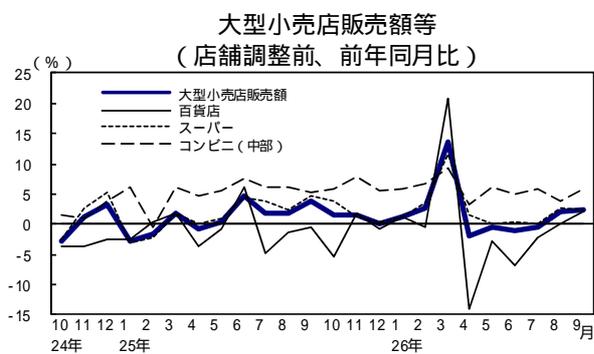
大型小売店販売額

百貨店については、7月は、気温が前年に比べ低かったこと等からクリアランスセールを中心に衣料品等が振るわず前年を下回った。8月は、飲食料品が底堅く推移したこと等から前年を上回った。9月は、気温低下により秋物衣料に動きがみられた等から前年を上回った。スーパーは、生鮮食品の相場高もあって飲食料品が底堅く推移したこと等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (10月) [家計動向関連 (現状)]

北陸地域の家計動向関連DIは、46.0となり前月より2.3ポイント上昇した。

「北陸新幹線開通まで140日を切り、建設業界ではこの30年で最も景気が良いという声を聞く。接待や社内慰労会などの利用が増加している (高級レストラン)」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。

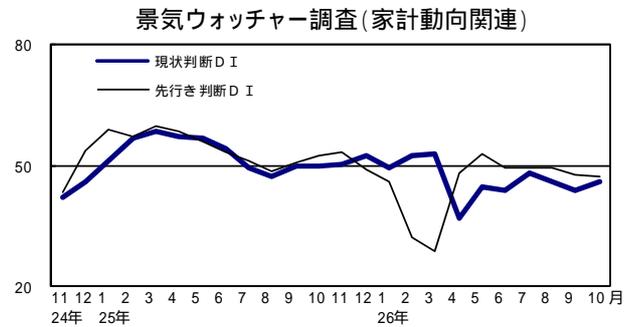
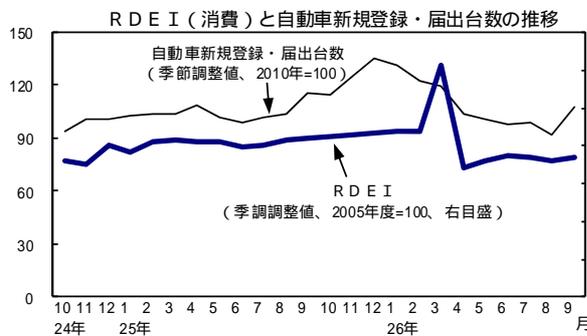


	26年7-9月	26年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.4	0.3	0.3	0.4
大型小売店 (*2)	1.3	0.4	2.2	2.3
百貨店 (*2)	0.2	2.1	0.1	2.0
スーパー (*2)	1.7	0.1	2.7	2.4
コンビニ (*2)	5.1	5.7	3.9	5.8
乗用車 (*3)	7.1	2.7	14.4	6.2
(季節調整値) (*3)	1.4	1.9	7.8	17.8

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)、コンビニは中部

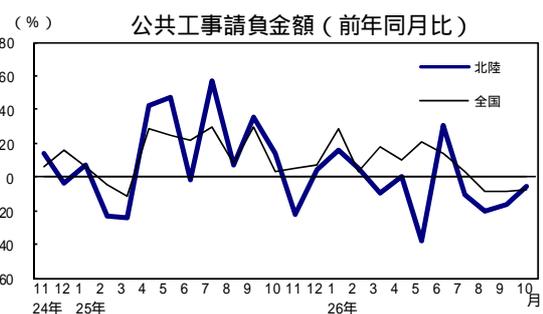
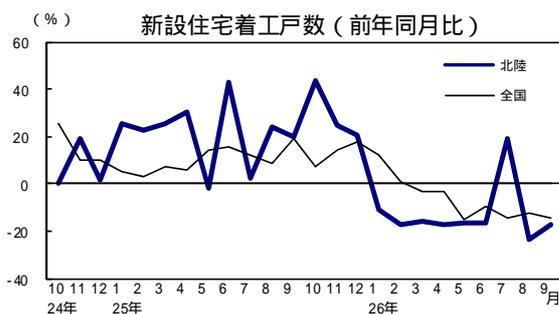
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は減少している。

貸家、分譲が前年を上回ったものの、持家が下回ったことから、全体では大幅に減少している。

(3) 公共投資は26年度累計で見ると前年度を下回っている。

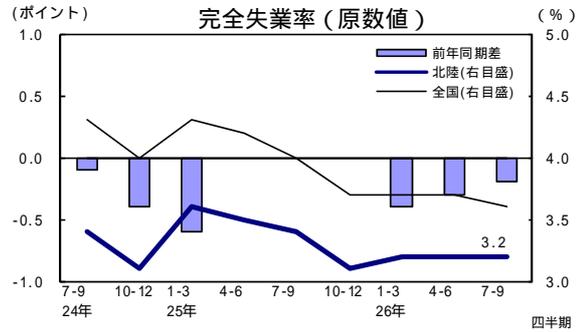
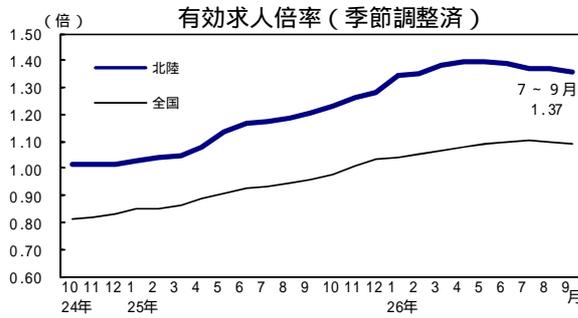


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月) [雇用関連 (現状)]

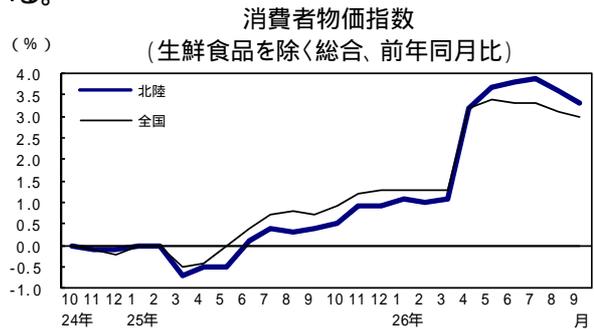
「求人広告の件数が3か月前と比べると減少している (新聞社 [求人広告])」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	25年10-12月	26年1-3月	4-6月	7-9月	26年10月
倒産件数	69	59	84	56	20
(前年比)	33.0	27.2	3.7	16.4	13.0
負債総額	88	78	204	84	28
(前年比)	92.3	55.7	27.7	7.8	85.6



景気ウォッチャー調査 (10月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・肌寒い天候が続き、秋ものや初冬ものの衣料、寝具、なべ食材の動きがよいが、買物の仕方は必要なものを必要な量だけ買い求めており、節約志向はまだまだ根強い。ただし、趣味し好性の強い商品は、積極的な興味を持たれている(その他小売 ショッピングセンター)。

<先行き>

・7~8月のお盆も昨年並みで推移したことから、クリスマスや年末においても昨年並みの推移が想定される。北陸新幹線開通に期待する部分もあるが、影響は少ないと思われる(スーパー)。

景気ウォッチャー調査 (合計：家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

